

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

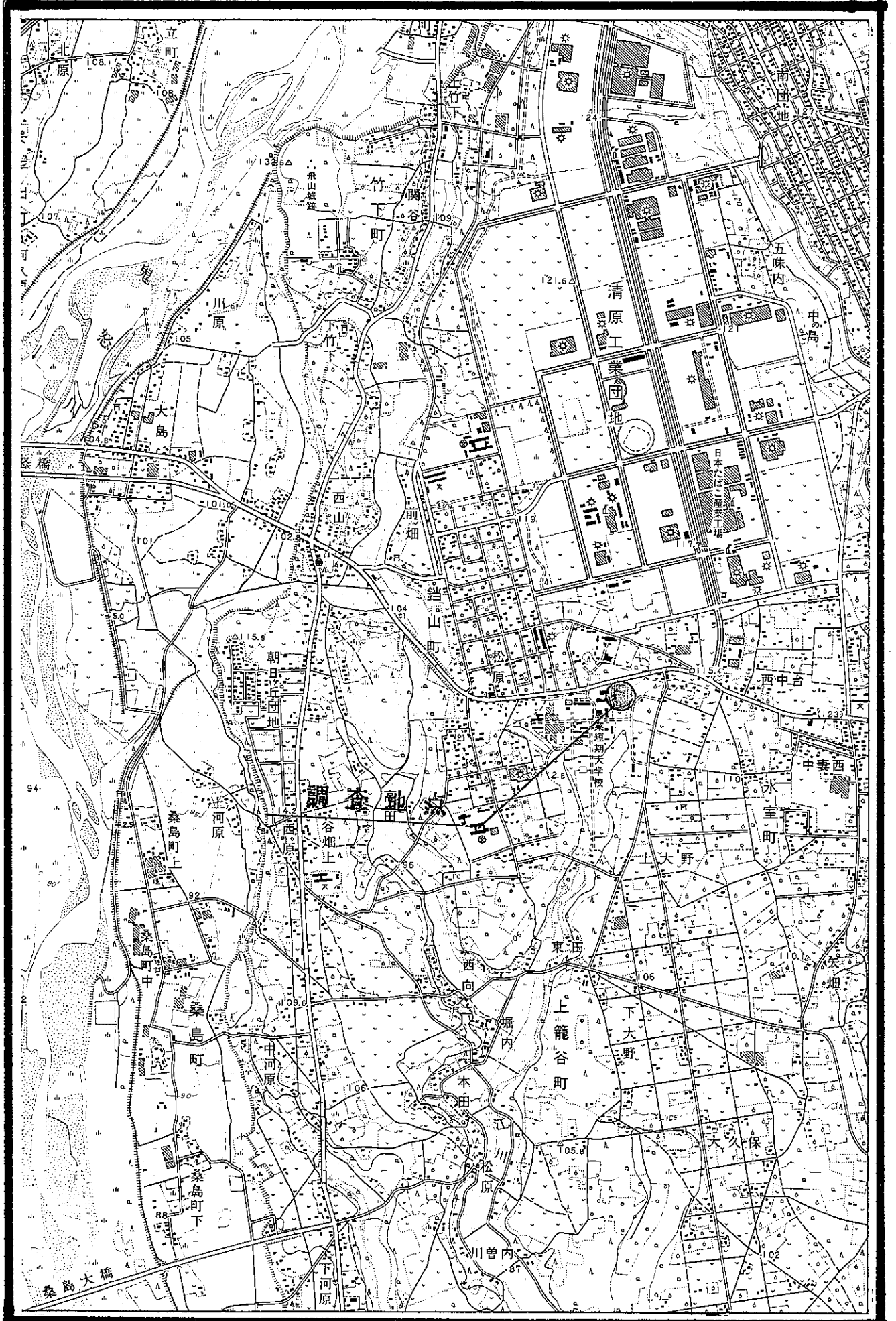
地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご利用ください。

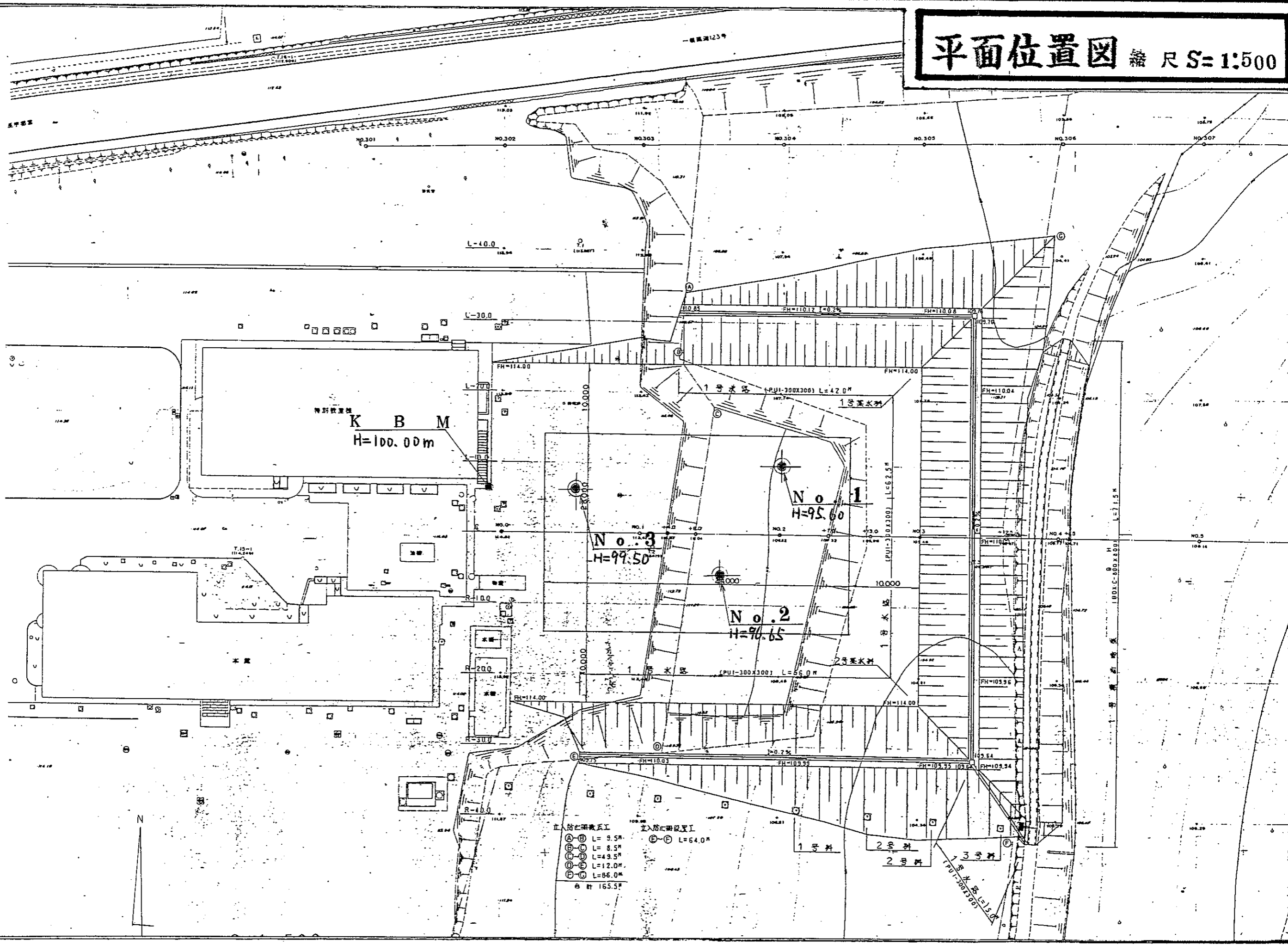
栃木県土木部建築課

調査位置図

縮尺 S=1:25,000



平面位置图 缩尺 S=1:500



ボーリング柱状図

調査名 栃木県農業大学校講堂兼体育館新築工事

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 1 孔		調査位置	宇都宮市上籠谷地内			北緯	
発注機関	栃木県土木部		調査期間	平成 3年 8月28日 ~ 3年 8月30日			東経	
調査業者名	主任技師		現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者		
孔口標高	95.60m	角 度 180° 上 90° 下	方 向 北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配 鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	ハンマー 落下用具	コーンブリー
総掘進長	25.45m				エンジン	KR-50	ポンプ	カノV6-S

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		掘進月日	
										深 度 (m)	10cm この 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)	試験名 および結果	深 度 (m)	試料 番号		採取 方法
1			X	盛土	暗灰褐		軟らかい 中位	シルト・ローム等の粘性土にて埋土 されコンクリート片や砂利等混じる		1.15	1	1	3/30	3		1.15	1	○	
2										1.45	2	2	7/30	7		1.45	2	○	
3	2.80	2.80		シルト	黒褐		軟らかい	旧表土 比較的・均質な層相を呈する		2.15	2	2	7/30	7		2.15	2	○	
4	0.90	0.30	4.00	軽石	黄褐			今地軽石 粒径φ2~5mm程度		2.45	2	1	5/30	5		2.45	3	○	
5				ローム	茶褐		軟らかい	火山灰質粘性土 少量の有機物混じる		3.15	2	1	5/30	5		3.15	3	○	
6										3.45	1	1	2/35	2		3.45	4	○	
7				ローム	茶褐		軟らかい	下部に漸移するに従い若干の砂分を 混じる		4.15	1	1	2/35	2		4.15	5	○	
8	0.20	0.20	7.70	軽石	黄褐			今地軽石 粒径φ2~5mm程度		4.50	1	1	2/35	2		4.39	6	○	
9										4.80	1	1	1/40	1		4.50	7	○	
10				ローム	茶褐		軟らかい			5.15	1	1	1/50	1		5.15	8	○	
11										5.50	1	1	1/50	1		5.50	9	○	
12										6.15	1	1	1/50	1		6.15	10	○	
13	5.50	5.50	13.20							6.45	1	1	1/50	1		6.45	11	○	
14										7.15	1	1	1/50	1		7.15	12	○	
15										7.55	1	1	1/50	1		7.55	13	○	
16										8.15	1	1	1/50	1		8.15	14	○	
17										8.55	1	1	1/50	1		8.55	15	○	
18										9.15	1	1	1/50	1		9.15	16	○	
19										9.65	1	1	1/50	1		9.65	17	○	
20										10.15	0	0	0/50	0		10.15	18	○	
21										10.65	1	1	3/35	3		10.65	19	○	
22										11.15	1	1	3/35	3		11.15	20	○	
23										11.50	1	1	2/36	2		11.50	21	○	
24										12.15	4	1	6/30	6		12.15	22	○	
25										12.51	11	8	27/30	27		12.51	23	○	
26										13.15	16	14	45/30	45		13.15	24	○	
27										13.45	10	11	31/30	31		13.45	25	○	
28										14.15	11	11	33/30	33		14.15	26	○	
29										14.45	17	20	50/27	56		14.45	27	○	
30										15.15	23	27	50/20			15.15	28	○	
31										15.45	7	7	20/30	20		15.45	29	○	
32										16.15	7	6	19/30	19		16.15	30	○	
33										16.45	8	12	38/30	38		16.45	31	○	
34										17.15	16	16	50/30	50		17.15	32	○	
35										17.45	14	14	43/30	43		17.45	33	○	
36										18.15	12	14	38/30	38		18.15	34	○	
37										18.42						18.42	35	○	
38										19.15						19.15	36	○	
39										19.35						19.35	37	○	
40										20.15						20.15	38	○	
41										20.45						20.45	39	○	
42										21.15						21.15	40	○	
43										21.45						21.45	41	○	
44										22.15						22.15	42	○	
45										22.45						22.45	43	○	
46										23.15						23.15	44	○	
47										23.45						23.45	45	○	
48										24.15						24.15	46	○	
49										24.45						24.45	47	○	
50										25.15						25.15	48	○	
51										25.45						25.45	49	○	

8/28

8/29

8/30

ボーリング柱状図

調査名 栃木県農業大学校講堂兼体育館新築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 2孔	調査位置	宇都宮市上籠谷地内			北緯	
発注機関	栃木県		調査期間	平成 3年 8月28日 ~ 3年 9月 2日		東経	
調査業者名	主任技師		現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	96.65m	角 度	180°上 90°	方 向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤割配	水平 0°
総掘進長	21.38m	度	180°下 90°	向	北 0° 270°西 90°東 180°南	使用機種	試錐機 KR-100 エンジン NS-8
						ハンマー落下用具	コーンブリー
						ポンプ	カノV6-S

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	標準貫入試験				原位置試験		採取方法	室内試験 (掘進月日)			
									深 度 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)	試験名および結果					
1			X	盛土	灰茶褐		軟らかい	シルト・ローム・コンクリート片等により盛土されている	1.15	1	4	2	7/30	7		1.15	1	○	
2	94.55	2.10		シルト	暗黒		中位	旧表土 比較的均質な層相を呈する	1.45	1	1	1	3/30	3		1.48	2	○	
3									2.15	1	1	1	3/30	3		2.15	2	○	
4	92.80	1.75							2.45	2	1	2	5/30	5		2.45	3	○	
5				ローム	茶褐		非常に軟らかい	火山灰質粘性土 部分的に粘性に富み粘土化呈する 比較的均質な層相を呈する	3.15	2	1	2	5/30	5		3.15	3	○	
6									3.45							3.45	3	○	
7									3.45	1/30		1/30	1		3.45	4	○		
8									4.15	1/30		1/30	1		4.15	4	○		
9	87.75	5.05		軽石	黄褐			粒径φ2~3mm程度 粘土化を呈す	4.45	1	1	1	3/30	3		4.45	5	○	
10	86.95	0.80							5.15	1	1	1	3/30	3		5.15	5	○	
11				ローム	茶褐		非常に軟らかい	火山灰質粘性土 比較的均質な層相を呈する	5.45						5.45	6	○		
12									6.15	1/45		1/45	1		6.15	6	○		
13									6.60	1/50		1/50	1		6.60	7	○		
14	82.75	4.20							7.15	1/50		1/50	1		7.15	7	○		
15									7.65	1/50		1/50	1		7.65	7	○		
16									8.15	1/50		1/50	1		8.15	8	○		
17									8.65	1/50		1/50	1		8.65	8	○		
18									9.15	1/20	1	2/30	2		9.15	9	○		
19									9.45	1/30		1/30	1		9.45	9	○		
20									10.15	1/30		1/30	1		10.15	10	○		
21	75.27	7.48		砂礫	茶褐		非常に密な	粒径Maxφ100mm程度の玉石を介し、φ10~50mm程度の垂円礫・垂角礫を主にマトリックス(基質部)は砂分や細粒分にてうめられる 部分的に礫分の含有少なく砂分や細粒分の多い所見られる 礫種は、チャート・安山岩・砂岩等により構成される	10.45	1/22	1/13	2/35	2		10.60	11	○		
									11.15	1/30		1/30	1		11.15	11	○		
									11.50	1/30		1/30	1		11.45	12	○		
									12.15	1/20	1	2/30	2		12.15	12	○		
									12.45	1/20	1	2/30	2		12.45	13	○		
									13.15	1/20	1	2/30	2		13.15	13	○		
									13.45	10	8	8	26/30	26		13.45	14	○	
									14.15	16	12	15	43/30	43		14.15	14	○	
									14.45	27	23		50/20			14.45	15	○	
									15.15	20	30		50/20			15.15	15	○	
									15.45	16	30	4	50/21			15.45	16	○	
									16.15	20	30		50/20			16.15	16	○	
									16.35	16	30	4	50/21			16.35	17	○	
									17.15	13	17	18	48/30	48		17.15	17	○	
									17.35	15	15	18	48/30	48		17.35	17	○	
									18.15	16	28	6	50/23			18.15	18	○	
									18.36	13	17	18	48/30	48		18.36	18	○	
									19.15	15	15	18	48/30	48		19.15	19	○	
									19.45	16	28	6	50/23			19.45	19	○	
									20.15	16	28	6	50/23			20.15	20	○	
									20.45	16	28	6	50/23			20.45	20	○	
									21.15	16	28	6	50/23			21.15	20	○	
									21.38	16	28	6	50/23			21.38	20	○	

ボーリング柱状図

調査名 栃木県農業大学校講堂兼体育館新築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 3孔		調査位置	宇都宮市上籠谷地内				北緯					
発注機関	栃木県			調査期間	平成 3年 9月 3日 ~ 3年 9月 5日			東経					
調査業者名	主任技師			現場代理人	コ ア 鑑定者			ボーリング責任者					
孔口標高	99.50m	角	180° 上 90° 下	方	北 270° 西 180° 東 90° 南	地盤公配	鉛直	水平	使用機種	試錐機	K R - 1 0 0	ハンマー 落下用具	コーンブリー
総掘進長	29.45m	度		向					エンジン		N S - 8	ポンプ	カノV6-S

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	標準貫入試験					原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	採取 深度 (m)	採取 番号	採取 方法	室内 試験 ()	掘進 月日	
									深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数		打撃回数/貫入量 (cm)	N 値 —○—								
										0	10										20
1			X	盛土	黒褐		中位	ロームやシルト等の混合土 やや粘性に富不均質な層相を呈する	1.15	2	1	1	4	4		1.15	1	○			
2	97.40	2.10	2.10	シルト	黒灰		中位	少量の植物根をふくむ 比較的均質な層相を呈する	1.47	2	2	4	8	8		1.47		○			
	96.95	0.45	2.55						2.15	2	2	4	8	8		2.15	2	○			
3				ローム	茶褐		軟らかい	火山灰質粘性土 比較的均質な層相を呈する	2.45							2.45		○			
									3.15	1	2	2	5	5		3.15	3	○			
4	95.50	1.45	4.00	軽石	黄褐			鹿沼軽石	3.45						3.45		○				
	93.30	0.20	4.20						4.15	1			1	1		4.15	4	○			
5									4.45	1			1	1		4.45	5	○			
									5.15	1	1	1	3	3		5.15		○			
6									5.48						5.48		○				
									6.15	1	1	1	2	2		6.15		○			
7							軟らかい		6.50						6.50		○				
									7.15	1	1	3	5	5		7.15		○			
8				ローム	茶褐		軟らかい	火山灰質粘性土 若干の粘性を帯びる 下部に漸移するに従い粘性に富む	7.45						7.45		○				
									8.15	1	1	1	3	3		8.15		○			
									8.46						8.46		○				
9							中位		9.15	1			1	1		9.15		○			
									9.49						9.49		○				
10									10.15	1	1	1	2	2		10.15		○			
									10.50						10.50		○				
11									11.15	1	1	1	3	3		11.15		○			
									11.45						11.45		○				
12	87.60	7.70	11.90	軽石	黄褐		中位	真岡軽石 φ2~3mm程度 若干の風化帯びる	12.15	1	1	2	4	4		12.15		○			
	86.95	0.65	12.55						12.47						12.47		○				
13							軟らかい		13.15	1	1	1	2	2		13.15		○			
									13.50						13.50		○				
14				ローム	茶褐		軟らかい	火山灰質粘性土 やや粘性に富不均質な層相を呈する	14.15	1	1	1	3	3		14.15		○			
									14.46						14.46		○				
15							中位		15.15	1	1	2	4	4		15.15		○			
									15.45						15.45		○				
16	83.25	3.70	16.25						16.15	4	8	15	27	27		16.15		○			
									16.45						16.45		○				
17									17.15	17	12	15	44	38		17.15		○			
									17.50						17.50		○				
18									18.15	9	15	14	38	30		18.15		○			
									18.45						18.45		○				
19									19.15	18	14	15	47	30		19.15		○			
									19.45						19.45		○				
20									20.15	21	15	14	50	30		20.15		○			
									20.45						20.45		○				
21							密なく非常に密なく密な		21.15	35	15	5	50	15		21.15		○			
									21.30						21.30		○				
22				砂礫	灰茶褐			礫径φ10~φ50mm程度の垂円礫を主にマリックス(基質部)は砂分や細粒分にてうずめられる 細粒分優位である 礫種は、古期岩、石英斑岩、流紋岩、安山岩などで構成される 固結度は高い	22.15	21	12	16	49	30		22.15		○			
									22.45						22.45		○				
23									23.15	20	15	13	48	30		23.15		○			
									23.45						23.45		○				
24									24.15	19	15	16	50	27		24.15		○			
									24.42						24.42		○				
25									25.15	23	27	50	20		25.15		○				
									25.35						25.35		○				
26									26.15	15	20	15	50	22		26.15		○			
									26.37						26.37		○				
27									27.15	21	22	7	50	24		27.15		○			
									27.39						27.39		○				
28									28.15	23	27	50	20		28.15		○				
									28.35						28.35		○				
29									29.15	12	15	18	45		29.15		○				

9/3

20M

9/4

9/5